モンゴルの地域経済動向
― 内モンゴル自治区・東北3省・新疆ウイグル自治区との比較 ―

栗　林　純　夫
バトゥール・バヤンフー

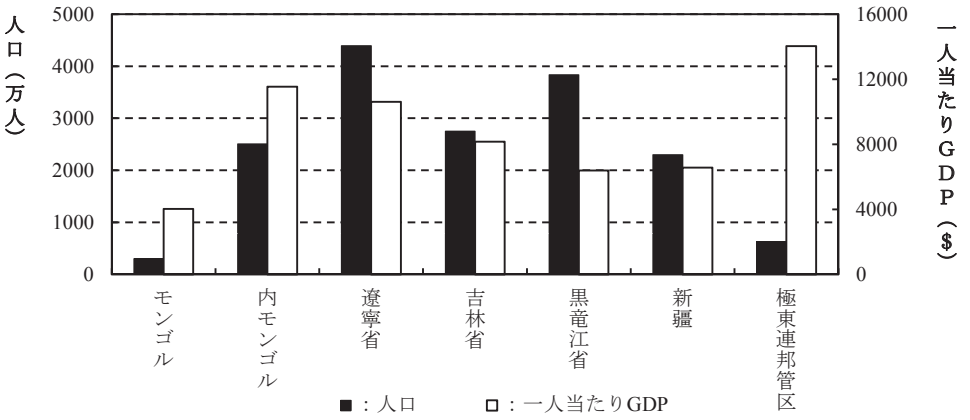
はじめに：

本稿では、昨年に引き続き、モンゴルのアイマグ（県）別の主要経済統計を、周辺地域のそれと比較可能な形で示すことにしたい。今回は、内モンゴル自治区（以下、内モンゴル）に、黒竜江、吉林、遼寧の東北3省、そして新疆ウイグル自治区（以下、新疆）を加えた5つの地域（以下、周辺地域）との比較という視点を導入することにしよう。

1．モンゴルと周辺地域のマクロ動向

まず経済統計の中で、もっとも基本となる、「人口」と「一人当たりGDP」の指標を、図1に示す。ここでは、参考として、ロシア極東連邦管区のそれらも、含めている1。人口規模は、モンゴルと他とでは、大きく異なるが、一人当たりGDPについての差異は、右軸の目盛りを注意して読むと、実は、それほど大きくないともいえる。

図1　2014年の人口と一人当たりGDP



出所：National Statistical Office of Mongolia, *Mongolian Statistical Yearbook*, National Bureau of Statistics of China, *China Statistical Yearbook* およびERINA（2015）より作成。

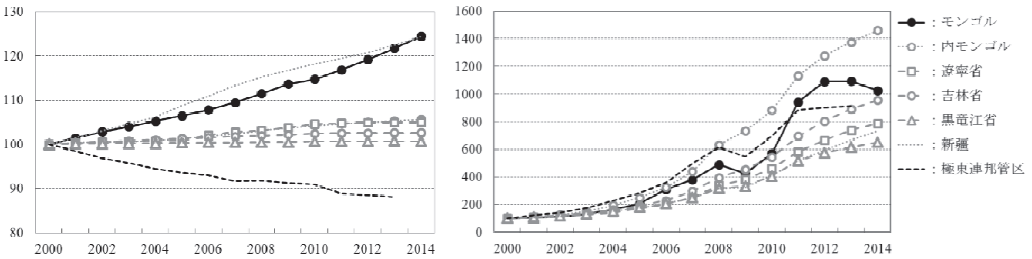
注：モンゴル以外の地域では「一人当たりGRP（域内総生産）」を用いている。また、極東連邦管区は、「サハ共和国」、「カムチャツカ地方」、「沿海地方」、「ハバロフスク地方」、「アムール州」、「マガダン州」、「サハリン州」、「ユダヤ自治州」、「チュコト自治管区」の9地域の合計であり、2013年の数値。

次に、上記の二つの指標の、2000年から14年にかけての推移を図2に示す。

この間に人口がもっとも増加したのは、モンゴルと新疆である（2000年の人口を100としたとき、14年のそれは両者とも124）。一方、極東連邦管区の人口は、2000年に比して、大きく減少している。

次に一人当たりGDP（あるいはGRP）では、モンゴルと内モンゴルのそれの増加が著しく、同期に各々10倍、15倍となっている。これらは、資源開発関連の貢献によるものであるが、資源の枯渇、あるいは資源輸出の停滞などが生じた場合、その持続性に疑問が生ずるものであることは、論を待たない。

図2　人口（左図）と一人当たりGDP（右図）の推移（2000年＝100）



出所および注：図1に同じ。

2. 人口および就業構造

表1にモンゴルの2014年の人口と就労状況を、また、表2に周辺地域のそれを示す。ここでは、モンゴルのアイマグ（県）・レベルの統計も参考として示す。

まず、モンゴル国内の地域人口比率では、首都ウランバートルが全体の46％、エルデネット鉱山を有するオルホンが3％、そしてタバントルゴイ鉱山・オユントルゴイ炭田を有するウムヌゴビでは2％となっている。首都以外のアイマグでは、人口や就業者の比率が低く、人口に占める牧民の割合が高いという構造に変化はない。

モンゴル国外との比較では、モンゴルの人口を1とすると、遼寧省が15、黒竜江省が13、吉林省が9、そして内モンゴル・新疆が8となる。

第1次産業就業者数/人口数の比率を見ると、モンゴルのそれは9.8％であるが、中国の全体では、16.7％と高い。但し、各々の国内地域では事情が異なり、モンゴルでは、首都を除いてみると、西部が20％台と高く、また中国の内モンゴルでも20％近辺となっていることがわかる。これらの情報を参考にして、読者が、この地域に対するイメージを補強するように望む。

---

[1] 公益財団法人環日本海経済研究所（ERINA）では、定期的に貴重な統計資料を作成している。『北東アジア経済データブック2015』、とくに新井洋史・調査研究部長兼主任研究員による「第2部　ロシア」および「ロシア付表」を参考とさせていただいた。

表1　モンゴルの人口・就業者・牧民の地域別分布（2014年）

	人口			就業者			失業者			牧民			
	N（万人）	構成比（%）	'10＝100	L（万人）	構成比（%）	'10＝100	U（万人）	構成比（%）	'10＝100	H（万人）	構成比（%）	'10＝100	H / N（%）
西部地区	**37.9**	**12.6**	**106**	**15.5**	**13.9**	**91**	**2.4**	**24.7**	**125**	**7.8**	**26.7**	**89**	**20.7**
ﾊﾞﾔﾝｳﾙｷﾞｰ	9.5	3.2	108	3.6	3.2	86	1.0	10.9	847	1.8	6.2	98	19.2
ｺﾞﾋﾞｱﾙﾀｲ	5.7	1.9	106	2.4	2.2	85	0.3	2.8	97	1.3	4.4	88	22.8
ｻﾞﾌﾞﾊﾝ	7.0	2.3	107	3.6	3.2	108	0.2	1.6	26	1.6	5.4	89	22.6
ｵﾌﾞｽ	7.6	2.5	104	2.9	2.6	89	0.5	5.3	88	1.6	5.5	86	21.4
ﾎﾌﾞﾄﾞ	8.2	2.7	106	3.0	2.7	91	0.4	4.1	119	1.5	5.1	84	18.6
ﾊﾝｶﾞｲ地区	**57.0**	**19.0**	**109**	**24.3**	**21.9**	**103**	**1.8**	**18.5**	**56**	**12.1**	**41.3**	**90**	**21.3**
ｱﾙﾊﾝｶﾞｲ	9.3	3.1	110	4.4	3.9	95	0.2	1.8	51	2.7	9.1	88	28.6
ﾊﾞﾔﾝﾎﾝｺﾞﾙ	8.3	2.8	109	3.8	3.4	104	0.2	2.3	166	2.1	7.1	94	25.3
ﾎﾞﾙｶﾞﾝ	6.1	2.0	113	2.5	2.3	97	0.3	2.8	59	1.5	5.1	97	24.6
ｵﾙﾎﾝ	9.4	3.2	104	3.5	3.2	126	0.5	5.2	51	0.1	0.4	54	1.4
ｳﾌﾞﾙﾊﾝｶﾞｲ	11.3	3.8	111	5.3	4.7	102	0.2	2.0	72	2.8	9.4	90	24.4
ﾌﾌﾞｽｸﾞﾙ	12.6	4.2	110	4.9	4.4	100	0.4	4.3	42	3.0	10.2	88	23.7
中部地区	**48.0**	**16.0**	**107**	**18.4**	**16.6**	**94**	**1.9**	**19.4**	**93**	**5.7**	**19.5**	**93**	**11.9**
ｺﾞﾋﾞｽﾝﾍﾞﾙ	1.6	0.5	121	0.5	0.4	96	0.0	0.3	34	0.1	0.4	120	7.0
ﾀﾞﾙﾊﾝｵｰﾙ	10.0	3.3	105	3.3	3.0	96	0.3	3.6	80	0.2	0.8	69	2.2
ﾄﾞﾙﾉｺﾞﾋﾞ	6.4	2.1	108	2.5	2.2	101	0.4	4.1	85	0.7	2.4	105	11.1
ﾄﾞﾝﾄﾞｺﾞﾋﾞ	4.4	1.5	115	2.1	1.9	96	0.1	1.2	47	1.1	3.8	91	25.3
ｳﾑﾇｺﾞﾋﾞ	6.0	2.0	97	2.7	2.4	115	0.3	3.6	80	0.9	3.2	92	15.8
ｾﾚﾝｹﾞ	10.6	3.5	109	3.2	2.9	70	0.4	3.8	375	0.8	2.7	89	7.5
ﾄｳﾌﾞ	9.0	3.0	105	4.1	3.7	104	0.3	2.9	108	1.8	6.2	96	20.3
東部地区	**20.4**	**6.8**	**109**	**7.7**	**6.9**	**107**	**1.2**	**12.1**	**138**	**3.4**	**11.5**	**91**	**16.5**
ﾄﾞﾙﾉﾄﾞ	7.5	2.5	108	2.6	2.3	111	0.3	3.2	96	0.8	2.6	92	10.1
ｽﾌﾊﾞｰﾄﾙ	5.7	1.9	112	2.5	2.2	95	0.3	2.9	67	1.4	4.7	92	24.2
ﾍﾝﾃｨ	7.1	2.4	108	2.7	2.4	117	0.6	5.9	574	1.2	4.2	89	17.2
ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ	**136.3**	**45.5**	**110**	**45.2**	**40.7**	**125**	**2.4**	**25.4**	**71**	**0.3**	**1.1**	**58**	**0.2**
総計	**299.6**	**100.0**	**109**	**111.1**	**100.0**	**107**	**9.6**	**100.0**	**85**	**29.4**	**100.0**	**90**	**9.8**

出所：National Statistical Office of Mongolia, *Mongolian Statistical Yearbook*（various issues）より作成。

表2　周辺地域の人口・就業者の地域別分布（2014年）

	人口			就業者			失業者			第1次産業就業者			
	N（万人）	ﾓﾝｺﾞﾙ＝1	'10＝100	L（万人）	ﾓﾝｺﾞﾙ＝1	'10＝100	U（万人）	ﾓﾝｺﾞﾙ＝1	'10＝100	L1（万人）	ﾓﾝｺﾞﾙ＝1	'10＝100	L1 / N（%）
周辺地域計	15,779	52.7	101	8,522	76.7	117	140	14.6	108	2,612	89.0	87	16.6
内モンゴル	2,505	8.4	101	1,433	12.9	121	25	2.6	119	509	17.3	89	20.3
遼寧省	4,391	14.7	100	2,874	25.9	128	41	4.3	105	580	19.8	83	13.2
吉林省	2,752	9.2	100	1,447	13.0	116	23	2.4	102	534	18.2	102	19.4
黒竜江省	3,833	12.8	100	1,709	15.4	98	40	4.2	110	593	20.2	77	15.5
新疆	2,298	7.7	105	1,059	9.5	124	11	1.2	102	396	13.5	91	17.2
中国（総計）	136,782	456.6	102	77,253	695.5	102	775	80.9	105	22,790	776.2	82	16.7

出所：National Bureau of Statistics of China, *China Statistical Yearbook*（various issues）より作成。

3. 地域総生産と産業構造

域内総生産（GRP：GDPの地域版）を表3および表4に示す。モンゴルのGDPを1とすると、遼寧省＝39、内モンゴル＝24、黒竜江省＝20、吉林省＝19、そして新疆＝13になるという規模の違いに、注意されたい。

次に、モンゴル国内をみると、そのGRP比率は、ウランバートルが全体の61％、オルホンが6％、ドルノドが3％の水準となり、経済力の首都集中という構造に変化はない。

また、ウランバートル（UB）の一人当たりGRPは5,400ドルであるのに対して、内モンゴルが11,500ドル（UBの2.1倍）、遼寧省が11,000ドル（同：2倍）、吉林省が8,200ドル（同：1.5倍）、黒竜江省と新疆がそれぞれ6,400と6,600ドル（同：1.2倍）となる。

表3　モンゴルの域内総生産と生産性の地域別分布（2014年）

	域内総生産			産業構造比率			地域比率			生産性1		生産性2	
	Y (億$)	構成比 (%)	'10＝100	Y1 (%)	Y2 (%)	Y3 (%)	Y1 (%)	Y2 (%)	Y3 (%)	Y / N ($)	UB＝100	Y1 / H ($)	DA＝100
西部地区	**8.0**	**6.6**	**381**	**44.8**	**13.9**	**41.3**	**21.2**	**2.6**	**5.5**	**2,112**	**39**	**4,580**	**38**
ﾊﾞﾔﾝｳﾙｷﾞｰ	1.7	1.4	370	38.4	14.7	46.9	3.8	0.6	1.3	1,756	33	3,506	29
ｺﾞﾋﾞｱﾙﾀｲ	1.2	1.0	455	49.1	14.5	36.4	3.6	0.4	0.7	2,172	40	4,673	39
ｻﾞﾌﾞﾊﾝ	1.8	1.5	448	45.8	13.4	40.8	4.9	0.6	1.2	2,579	48	5,221	43
ｵﾌﾞｽ	1.6	1.4	356	45.4	13.4	41.3	4.4	0.5	1.1	2,155	40	4,569	38
ﾎﾌﾞﾄﾞ	1.7	1.4	322	46.7	13.7	39.7	4.6	0.5	1.1	2,045	38	5,144	43
ﾊﾝｶﾞｲ地区	**17.0**	**14.1**	**192**	**33.1**	**42.6**	**24.3**	**33.2**	**16.7**	**6.9**	**2,984**	**55**	**4,642**	**38**
ｱﾙﾊﾝｶﾞｲ	2.2	1.8	296	60.1	16.0	23.9	7.7	0.8	0.9	2,327	43	4,894	41
ﾊﾞﾔﾝﾎﾝｺﾞﾙ	1.8	1.5	412	52.1	13.5	34.4	5.6	0.6	1.0	2,197	41	4,530	38
ﾎﾞﾙｶﾞﾝ	1.7	1.4	260	59.5	18.6	21.9	6.1	0.7	0.6	2,870	53	6,961	58
ｵﾙﾎﾝ	6.6	5.5	119	1.7	83.1	15.3	0.6	12.6	1.7	6,977	130	8,458	70
ｳﾌﾞﾙﾊﾝｶﾞｲ	2.1	1.8	375	50.6	14.8	34.6	6.4	0.7	1.2	1,897	35	3,930	33
ﾌﾌﾞｽｸﾞﾙ	2.6	2.1	286	44.9	21.3	33.8	6.8	1.2	1.4	2,025	38	3,835	32
中部地区	**14.9**	**12.4**	**300**	**31.2**	**37.5**	**31.4**	**27.4**	**12.8**	**7.8**	**3,104**	**58**	**8,098**	**67**
ｺﾞﾋﾞｽﾝﾍﾞﾙ	0.5	0.4	304	18.1	50.9	31.0	0.5	0.6	0.3	3,075	57	8,001	66
ﾀﾞﾙﾊﾝｵｰﾙ	2.3	1.9	225	11.7	39.8	48.5	1.6	2.1	1.8	2,289	43	12,080	100
ﾄﾞﾙﾉｺﾞﾋﾞ	1.8	1.5	541	30.8	24.4	44.8	3.3	1.0	1.4	2,849	53	7,898	65
ﾄﾞﾝﾄﾞｺﾞﾋﾞ	1.3	1.0	423	56.2	14.2	29.6	4.2	0.4	0.6	2,837	53	6,313	52
ｳﾑﾇｺﾞﾋﾞ	3.2	2.6	258	17.5	59.3	23.2	3.3	4.3	1.2	5,293	98	5,858	48
ｾﾚﾝｹﾞ	3.2	2.7	302	27.7	45.5	26.7	5.3	3.4	1.4	3,035	56	11,247	93
ﾄｳﾌﾞ	2.7	2.2	307	59.0	17.4	23.7	9.3	1.1	1.0	2,956	55	8,580	71
東部地区	**7.4**	**6.2**	**458**	**31.7**	**48.1**	**20.2**	**13.9**	**8.2**	**2.5**	**3,642**	**68**	**6,991**	**58**
ﾄﾞﾙﾉﾄﾞ	3.4	2.8	829	14.5	67.5	18.0	2.9	5.3	1.0	4,531	84	6,510	54
ｽﾌﾊﾞｰﾄﾙ	2.1	1.7	288	37.2	45.1	17.7	4.6	2.2	0.6	3,668	68	5,648	47
ﾍﾝﾃｨ	1.9	1.6	400	56.4	16.8	26.8	6.4	0.7	0.9	2,683	50	8,815	73
ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ	**73.3**	**60.8**	**255**	**1.0**	**35.4**	**63.6**	**4.3**	**59.7**	**77.4**	**5,379**	**100**	**23,595**	**195**
総計	**120.6**	**100.0**	**261**	**14.0**	**36.0**	**49.9**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**4,027**	**75**	**5,769**	**48**

出所：表1に同じ。

注：UB、DAはそれぞれウランバートル、ダルハンオールを表す。

表4　周辺地域の域内総生産と生産性の地域別分布（2014年）

	域内総生産			産業構造比率			地域比率			生産性1		生産性2	
	Y (億$)	ﾓﾝｺﾞﾙ = 1	'10 = 100	Y1 (%)	Y2 (%)	Y3 (%)	Y1 (%)	Y2 (%)	Y3 (%)	Y / N ($)	UB = 100	Y1 / L1 ($)	DA = 100
周辺地域計	13,758	114.0	171	11.3	47.7	41.0	16.4	14.8	11.3	8,719	162	5,978	49
内モンゴル	2,893	24.0	168	9.2	51.3	39.5	2.8	3.4	2.3	11,548	215	5,206	43
遼寧省	4,660	38.6	171	8.0	50.2	41.8	3.9	5.3	3.9	10,613	197	6,418	53
吉林省	2,247	18.6	176	11.0	52.8	36.2	2.6	2.7	1.6	8,165	152	4,649	38
黒竜江省	2,448	20.3	160	17.4	36.9	45.8	4.5	2.0	2.2	6,387	119	7,169	59
新疆	1,510	12.5	188	16.6	42.6	40.8	2.6	1.5	1.2	6,569	122	6,330	52
中国（総計）	103,555	858.3	175	9.2	42.7	48.1	100.0	100.0	100.0	7,571	141	4,167	34

出所：表2に同じ。
注：表3に同じ。

次に、第1次産業の労働生産性を見ると。ダルハンオールが12,000ドルと高い水準にあり、それを100とすると、周辺地域は、ほぼ半分の水準となっていることがわかる。ただ、この値は、モンゴル全体では約5,700ドルであり、隣接する中国の各省では、表4に示すように約6,000ドルと、ほぼ同じ水準となる。

4. 農牧業とその生産性の地域分布

つぎに、2014年の農牧業関連指標の地域分布を見ることにしよう。モンゴルの五畜頭数および労働生産性を表5に、また国外の周辺地域のそれを表6に示す。

モンゴルでは、五畜（ウマ・ウシ・ラクダ・ヒツジ・ヤギ）総数が前年より700万頭増加して5,200万頭となり、人口の17倍もの家畜が存在する。家畜構成はヒツジ、ヤギの比率がそれぞれ44%、42%となることに変化はない。

一方、モンゴルに隣接する周辺地域の五畜総数は1億4,100万頭（モンゴルの2.7倍）で、そのうちヒツジ、ヤギの比率は62%、20%となる。とくに、内モンゴルや新疆でヒツジの比率が高い。

さらに、各地域の五畜頭数を「小型家畜換算」で計測し、全体を100とした地域比率を見ると、アルハンガイが10%、トゥブが9%、フブスグルが8%となる。また、内モンゴルが中国全体の10%、周辺地域計のそれが28%となる。

「小型家畜換算」で示された労働生産性は、ヘンティが466頭/人と高い水準を維持している。これを100とした指数を見ると、東部地区＝89、中部地区＝76、ハンガイ地区＝58、西部地区＝50となる。一方、モンゴル国外の周辺地域のそれは、分母となる「人」が第1次産業就業者数となるので、上と比較することは困難である。

表5　モンゴルの五畜頭数と労働生産性の地域別分布（2014年）

	五畜総数(万頭)	家畜構成					地域構成						小型換算(%)	労働生産性	
		ウマ(%)	ウシ(%)	ラクダ(%)	ヒツジ(%)	ヤギ(%)	五畜(%)	ウマ(%)	ウシ(%)	ラクダ(%)	ヒツジ(%)	ヤギ(%)		頭/人	KHE＝100
西部地区	**1,254**	**3.8**	**4.8**	**0.7**	**42.4**	**48.3**	**24.1**	**16.0**	**17.6**	**24.1**	**22.9**	**27.6**	**21.0**	**231.5**	**49.7**
ﾊﾞﾔﾝｳﾙｷﾞｰ	188	3.7	6.8	0.2	42.5	46.8	3.6	2.3	3.7	1.3	3.4	4.0	3.3	156.7	33.7
ｺﾞﾋﾞｱﾙﾀｲ	258	3.0	1.9	1.3	31.0	62.9	5.0	2.6	1.4	9.4	3.4	7.4	3.8	251.3	54.0
ｻﾞﾌﾞﾊﾝ	290	5.1	4.8	0.2	50.6	39.3	5.6	4.9	4.1	1.9	6.3	5.2	5.1	278.3	59.8
ｵﾌﾞｽ	256	3.5	5.7	0.8	49.2	40.9	4.9	3.0	4.3	5.6	5.4	4.8	4.4	233.8	50.2
ﾎﾌﾞﾄﾞ	263	3.7	5.3	0.8	37.9	52.4	5.1	3.2	4.0	5.9	4.3	6.2	4.5	253.9	54.5
ﾊﾝｶﾞｲ地区	**1,928**	**5.8**	**7.7**	**0.4**	**45.3**	**40.8**	**37.1**	**37.5**	**43.6**	**19.5**	**37.6**	**35.7**	**38.2**	**272.0**	**58.4**
ｱﾙﾊﾝｶﾞｲ	429	7.1	11.7	0.0	51.9	29.3	8.3	10.1	14.7	0.3	9.6	5.7	9.9	320.0	68.7
ﾊﾞﾔﾝﾎﾝｺﾞﾙ	347	3.6	4.9	1.2	28.5	61.7	6.7	4.2	5.0	11.9	4.3	9.7	5.8	240.0	51.5
ﾎﾞﾙｶﾞﾝ	313	8.1	8.3	0.0	52.6	31.0	6.0	8.5	7.6	0.4	7.1	4.4	6.8	394.3	84.7
ｵﾙﾎﾝ	12	7.4	14.8	0.0	41.6	36.2	0.2	0.3	0.5	0.0	0.2	0.2	0.3	205.1	44.1
ｳﾌﾞﾙﾊﾝｶﾞｲ	411	6.0	4.5	0.5	44.3	44.7	7.9	8.2	5.4	6.3	7.8	8.4	7.4	232.5	49.9
ﾌﾌﾞｽｸﾞﾙ	416	4.4	8.5	0.0	48.0	39.0	8.0	6.1	10.4	0.6	8.6	7.4	8.0	230.3	49.5
中部地区	**1,229**	**6.0**	**5.5**	**1.5**	**43.5**	**43.6**	**23.6**	**24.4**	**19.6**	**51.5**	**23.0**	**24.3**	**23.4**	**352.5**	**75.7**
ｺﾞﾋﾞｽﾝﾍﾞﾙ	34	4.4	3.1	0.3	44.9	47.4	0.7	0.5	0.3	0.2	0.7	0.7	0.5	417.5	89.7
ﾀﾞﾙﾊﾝｵｰﾙ	32	4.4	14.4	0.0	51.7	29.5	0.6	0.5	1.4	0.0	0.7	0.4	0.7	284.8	61.2
ﾄﾞﾙﾉｺﾞﾋﾞ	169	7.2	3.9	2.1	41.0	45.9	3.2	4.0	1.9	10.0	3.0	3.5	3.2	395.2	84.9
ﾄﾞﾝﾄﾞｺﾞﾋﾞ	244	4.3	1.9	1.2	45.8	46.9	4.7	3.5	1.3	8.0	4.8	5.2	3.8	293.8	63.1
ｳﾑﾇｺﾞﾋﾞ	185	3.6	0.9	6.1	21.5	67.9	3.6	2.2	0.5	32.3	1.7	5.7	3.1	280.8	60.3
ｾﾚﾝｹﾞ	147	5.4	13.4	0.0	47.5	33.7	2.8	2.7	5.8	0.1	3.0	2.3	3.3	362.9	77.9
ﾄｳﾌﾞ	418	7.9	6.9	0.1	50.8	34.3	8.0	11.0	8.5	0.8	9.2	6.5	8.7	408.8	87.8
東部地区	**748**	**8.4**	**7.7**	**0.2**	**48.8**	**34.8**	**14.4**	**21.0**	**16.9**	**4.9**	**15.7**	**11.8**	**16.2**	**414.1**	**88.9**
ﾄﾞﾙﾉﾄﾞ	139	12.7	10.2	0.3	48.3	28.5	2.7	5.9	4.2	1.3	2.9	1.8	3.6	413.5	88.8
ｽﾌﾊﾞｰﾄﾙ	282	8.2	7.0	0.3	49.0	35.5	5.4	7.7	5.7	2.5	5.9	4.6	5.9	369.1	79.3
ﾍﾝﾃｨ	327	6.7	7.3	0.1	48.9	36.9	6.3	7.4	7.0	1.1	6.9	5.5	6.6	465.6	100.0
ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ	**39**	**8.8**	**19.9**	**0.0**	**41.2**	**30.1**	**0.7**	**1.1**	**2.2**	**0.0**	**0.7**	**0.5**	**1.1**	**311.1**	**66.8**
総計	**5,198**	**5.8**	**6.6**	**0.7**	**44.7**	**42.3**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**100.0**	**293.7**	**63.1**

出所：表1に同じ。
　注：KHEはヘンティを表す。

表6　周辺地域の五畜頭数と労働生産性の地域別分布（2014年）

	五畜総数(万頭)	家畜構成					モンゴル＝1						小型換算(%)	労働生産性	
		ウマ(%)	ウシ(%)	ラクダ(%)	ヒツジ(%)	ヤギ(%)	五畜総数	ウマ	ウシ	ラクダ	ヒツジ	ヤギ		頭/人	KHE＝100
周辺地域計	14,099	1.7	16.4	0.2	62.0	19.6	2.7	0.8	6.8	0.9	3.8	1.3	27.9	10.3	2.2
内モンゴル	6,295	1.3	10.0	0.2	63.8	24.7	1.2	0.3	1.8	0.4	1.7	0.7	10.2	19.3	4.2
遼寧省	1,176	1.7	30.8	0.0	31.1	36.3	0.2	0.1	1.1	0.0	0.2	0.2	3.2	5.3	1.1
吉林省	872	3.5	49.4	0.0	40.9	6.2	0.2	0.1	1.3	0.0	0.2	0.0	3.3	6.0	1.3
黒竜江省	1,383	1.7	36.3	0.0	45.5	16.5	0.3	0.1	1.5	0.0	0.3	0.1	4.1	6.8	1.5
新疆	4,373	2.0	8.8	0.4	77.2	11.6	0.8	0.3	1.1	0.5	1.5	0.2	7.1	17.3	3.7
中国（総計）	41,531	1.5	25.5	0.1	38.2	34.8	8.0	2.0	31.0	1.0	6.8	6.6	100.0	4.2	0.9

出所：表2に同じ。
　注：表5に同じ。

5. 穀物収穫高と土地生産性

最後に、モンゴルと周辺地域の穀物収穫高と、その土地生産性を表7、表8に示す。

モンゴルの穀物収穫高52万トンに対して、内モンゴルのそれは2,500万トン（モンゴルの48倍）、周辺地域計のそれは1億5,000万トン（同：282倍）となる。穀物の土地生産性に

ついては、ハンガイ地区のオルホンがもっとも高く、3.6トン/haであり、それを100としたとき、周辺地域ではおおむね1.5から2倍の生産性となることが示されている。

表7　モンゴルの穀物収穫高と土地生産性の地域別分布（2014年）

	収穫高			播種面積			土地生産性	
	穀物（万t）	構成比（%）	'10＝100	穀物（千ha）	構成比（%）	'10＝100	t / ha	OR＝100
西部地区	**0.8**	**1.6**	**107**	**10.6**	**3.4**	**168**	**0.79**	**22**
ﾊﾞﾔﾝｳﾙｷﾞｰ	0.0	0.0	160	0.1	0.0	266	1.40	39
ｺﾞﾋﾞｱﾙﾀｲ	0.0	0.1	57	0.5	0.2	83	0.97	27
ｻﾞﾌﾞﾊﾝ	0.1	0.2	194	1.6	0.5	588	0.75	21
ｵﾌﾞｽ	0.6	1.2	113	8.3	2.6	176	0.77	21
ﾎﾌﾞﾄﾞ	0.0	0.0	31	0.2	0.1	23	1.13	31
ﾊﾝｶﾞｲ地区	**8.9**	**17.2**	**138**	**55.1**	**17.5**	**103**	**1.62**	**45**
ｱﾙﾊﾝｶﾞｲ	0.4	0.7	124	2.7	0.8	76	1.33	37
ﾊﾞﾔﾝﾎﾝｺﾞﾙ	0.0	0.0	153	0.0	0.0	46	1.69	47
ﾎﾞﾙｶﾞﾝ	4.8	9.2	131	32.2	10.2	104	1.48	41
ｵﾙﾎﾝ	1.1	2.1	169	3.0	0.9	102	3.62	100
ｳﾌﾞﾙﾊﾝｶﾞｲ	0.4	0.7	342	2.5	0.8	145	1.49	41
ﾌﾌﾞｽｸﾞﾙ	2.4	4.6	131	14.8	4.7	105	1.60	44
中部地区	**37.4**	**72.1**	**139**	**219.9**	**69.8**	**118**	**1.70**	**47**
ｺﾞﾋﾞｽﾝﾍﾞﾙ	—	—	—	—	—	—	—	—
ﾀﾞﾙﾊﾝｵｰﾙ	1.5	2.9	153	11.0	3.5	162	1.35	37
ﾄﾞﾙﾉｺﾞﾋﾞ	—	—	—	—	—	—	—	—
ﾄﾞﾝﾄﾞｺﾞﾋﾞ	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.40	11
ｳﾑﾇｺﾞﾋﾞ	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	1.00	28
ｾﾚﾝｹﾞ	24.5	47.3	138	142.3	45.2	110	1.72	48
ﾄｳﾌﾞ	11.4	21.9	138	66.5	21.1	132	1.71	47
東部地区	**4.7**	**9.1**	**381**	**29.4**	**9.3**	**226**	**1.60**	**44**
ﾄﾞﾙﾉﾄﾞ	1.6	3.0	312	9.9	3.2	240	1.57	43
ｽﾌﾊﾞｰﾄﾙ	0.4	0.8	9913	2.4	0.8	3043	1.63	45
ﾍﾝﾃｨ	2.8	5.3	376	17.1	5.4	194	1.61	45
ｳﾗﾝﾊﾞｰﾄﾙ	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**
総計	**51.9**	**100.0**	**146**	**315.0**	**100.0**	**122**	**1.65**	**46**

出所：表1に同じ。
　注：ORはオルホンを表す。

表8　周辺地域の穀物収穫高と土地生産性の地域別分布（2014年）

	収穫高			播種面積			土地生産性	
	穀物（万t）	構成比（%）	'10＝100	穀物（千ha）	構成比（%）	'10＝100	t / ha	OR＝100
周辺地域計	14,623	26.2	127	23,064	24.4	116	6.34	175
内ﾓﾝｺﾞﾙ	2,493	4.5	137	4,456	4.7	120	5.60	155
遼寧省	1,675	3.0	100	3,032	3.2	103	5.52	153
吉林省	3,421	6.1	129	4,595	4.9	119	7.44	206
黒竜江省	5,666	10.2	132	8,833	9.3	118	6.41	177
新疆	1,369	2.5	122	2,148	2.3	114	6.37	176
中国（総計）	55,741	100.0	112	94,603	100.0	105	5.89	163

出所：表2に同じ。
　注：表8に同じ。

おわりに：

以上、モンゴルの地域経済の特性を、内モンゴル、黒竜江省、吉林省、遼寧省、そして新疆、一部ロシア極東のそれとの比較によって示した。モンゴルの一人当たりGDPの、周辺他地域との水準格差は、以前より狭まっているという印象を受ける。一方、モンゴルの穀物生産の土地生産性が、周辺地域に比して、低い水準にあることも、再度確認された。ただ、これらを総合的に判断するには、まだデータが不足しており、稿を改めて、分析を継続することにしたい。

（くりばやし・すみお：東京国際大学大学院経済学研究科教授）
（ばとぅーる・ばやんふー：同大学国際交流研究所研究員）

参考資料・参考文献

［1］公益財団法人環日本海経済研究所（ERINA）企画・広報部編（2015）『北東アジア経済データブック2015』。

［2］平井貴幸・栗林純夫（2015「モンゴルの地域経済動向 ―中国内モンゴル自治区との比較―」、『日本とモンゴル』第49巻第2号（130号）、pp.53-59。

［3］Gupta, P., Li, B. G. and Yu, J.（2015）“From Natural Resource Boom to Sustainable Economic Growth: Lessons for Mongolia,” *IMF Working Paper* WP/15/90.

［4］Inner Mongolia Autonomous Regional Bureau of Statistics, *Inner Mongolia Statistical Yearbook*（various issues）.

［5］National Bureau of Statistics of China, *China Statistical Yearbook*（various issues）.

［6］National Statistical Office of Mongolia, *Mongolian Statistical Yearbook*（various issues）.

［7］World Bank, *World Development Indicators*.